

# THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



## WEEKLY

# なごや ちくさ

題字 黒野清字

名古屋千種ロータリークラブ  
承認 1982年 8月24日  
例会日 火曜日 12:30  
例会場 愛知厚生年金会館  
事務局 TEL763-5110 FAX763-5121  
会長 西川豊長  
幹事 中山信夫  
会報委員長 西尾正巳

No. 7

### 築け未来を 行動力と先見の眼で

### BUILD THE FUTURE WITH ACTION AND VISION

1996~97年度 RI会長 ルイス・ピセンテ・ジアイ

#### きょうの例会

第678回 平成8年8月27日(火)

会員増強及び拡大月間に因んで  
秋山会員選考委員長報告

#### 先週の記録

第677回 平成8年8月20日(火) 晴

創立14周年例会 友愛の日

◇黙 禱

◇“我等の生業”

◇出席報告

会 員 70(68)名 出 席 50名  
出席率 73.53%  
前々回 7月30日(修正出席率) 97.10%

◇ビジター紹介 2名

◇ゲスト紹介

名古屋名城RAC 会長代理 樋口慎一郎氏  
幹 事 小中郁香さん  
名短付高IAC 顧 問 河合保昌先生  
山口幸子さん  
藤原千夏さん  
富田陽子さん

◇ニコボックス

秋山 茂則君 読経流れ香煙漂う白菊の塔  
往時の遺児等子連れて焼香 29回忌  
松居 敬二君 創立14周年記念をお祝いして、  
仕事の都合にて早退します。  
水野 民也君 孫が交換留学生としてアメリカへ  
出発しました。  
西野 英樹君 ローターアクトクラブ、イン  
ターアクトクラブの皆様をお迎えしまして。  
大谷 和雄君 高校総体でバスケットが全国  
優勝、ハンドボールが全国準優勝でした。  
大口 弘和君、鈴木 理之君 黒須先生を偲んで  
足立 一成君、青山 敏郎君、伊豫田博明君、  
河村 政孝君、菊池 昭元君、木全 昭二君、  
小林 明君、小山 雅弘君、宮尾 紘司君、

永井 正義君、中井 常雄君、中根 三郎君、  
成田 良治君、西川 豊長君、西尾 正巳君、  
太田 茂君、鷺谷 龍男君、佐久間良治君、  
杉山 貞男君、鈴木 正男君、竹内 眞三君、  
田中 昭二君、谷口 優君、舎人 経昭君、  
魚津 常義君、和田 正敏君、渡辺 辰夫君、  
吉田 節美君、吉田 玄君  
創立14周年記念をお祝いして  
深見 章君、二村 聡君、三輪 康君、  
中山 信夫君 夫人誕生日祝い。

◇中山幹事報告

1. 元会員 黒須一夫氏がお亡くなりにな  
りましたのでお知らせ致します。

通 夜 21日(水)午後7時  
告別式 22日(木)午前11時  
場 所 日泰寺 舍利殿  
喪 主 黒須アイ子(夫人)

2. 次回例会終了後、理事役員会を開催致  
しますので理事役員の方はお残り下さい。

◇名古屋名城RAC 樋口慎一郎会長代理挨拶  
昨年は次々と行事があつて、何もわからな  
いまま一年がすぎましたが、今年はRACとは  
何かがわかるようになってきました。RACは  
①自己啓発②社会奉仕③友情をはぐくむ場で、  
この3つの柱を調和させる事によりこれからも  
良い発展をしていくと思ひます。

◇名古屋名城RAC 小中郁香幹事挨拶

今年度も皆様のご協力を得て、しゃちほこ  
杯、国際交流パーティー、社会福祉施設の訪  
問などさせて頂く予定です。提唱クラブの皆  
様にはご無理をお願いする事があると思ひま  
すが、ご指導賜る様お願い申し上げます。



◇名短付高 IAC 顧問 河合保昌先生挨拶

暗中模索のスタートでしたが、今年は様々な活動を行いました。今力を入れているのが手話で、先日聾啞学校を訪問し、手話でお話をしてきました。IACは皆様のご支援がないと活動する事が出来ません。これからもご協力賜りますようよろしくお願い致します。

◇名短付高 IAC 山口幸子さん挨拶

今年は協議会にはじまり、美杉村の合宿、夏休みの前半は盲導犬協会のボランティアに行ってきました。私は3年でもう引退ですが、1、2年生にはIACをもっと盛り上げて欲しいと思っています。



◇西川会長挨拶

本日は、当クラブ創立14周年記念例会であります。昭和57年8月16日名古屋東ロータリークラブをスポンサークラブとして創立し、当初26名の会員は現在70名の立派なクラブに成長いたしました。創立会長は水野民也さん、初代幹事は現在会長エレクトの松居敬二さんでありました。いずれ機会がありましたら、創立の苦心談、裏話を伺いたしたいと思います。当クラブも創立後必ずしも平坦な道を歩んだわけではありませんが、クラブの融和、和合は絶対であって、これを危なくするようなことは絶対あってはならないと、身をもって感じました。これからも、こういう気持ちでやってゆきたいと思っています。

さて、本日は冒頭、故黒須一夫先生のご冥福をお祈りして黙祷をいたしました。黒須先生は、先程の26名のチャーターメンバーの一人で、大変熱心なロータリアンでした。私はよく気が合って、よく隣同士に座って食事をしました。病氣療養のため、平成8年1月1日退会されましたが、回復されて又戻ってこられる日を待ち望んでいたのですが、ロータリーとしまして、かけがえのない有為な方が亡くなられて、まことに残念であります。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

本日はまた、名古屋名城ロータクトクラブ、名古屋短期大学付属高等学校インターアクトクラブの代表の方々をゲストとしてお招きし、只今は大変立派なご挨拶と活動状況についてお話して頂きました。発足後約1年に

して、こんなに立派に成長され、目をみはった次第であります。今後共一層の発展を期待いたします。

私は、たまたま「ロータリーの友」7月号を見まして、「戦争の詠嘆」という一文に目を引かれました。ロータリーとは何の関係もない表題です。筆者は東京小石川RCの鹿野塚見氏(弁護士)であります。内容は概略次のとおりであります。鹿野さんは、陸軍部内から陸士合格という特異な経歴を経ていたため、昭和十七年南方戦線に赴くはずであったが、多くの戦友を戦場に送り、自らはきわどく生き残った。散華した多くの友の面影がしのぼれ、哀惜鎮魂の境地に落ち込むことも度々あり、この気持ちは年とともに消え去るものでなく、おそらく生涯つづくと思われる。この詠嘆を新聞の毎週の投稿短歌欄に見だし、つい共感を覚えてひとり涙することがある。しかし、50年経って、悲しむ父母の歌はほとんどなく、残された妻や生き永らえた友の、亡き人を追慕するうたが散見されるだけになっている。そのうちの一首——命あらば 添えて生きしを たたかひに 逝きたる君を 知るはわれのみ (平成6年12月18日 朝日花壇 広島県藤井百合子)

概略は以上であります。私はこの一文と短歌に強い共感を覚えるとともに、これを掲載した「ロータリーの友」を改めて見直したのであります。ロータリーの「ロ」の字も出てこない記事がいくつも載っているのであります。私は4月16日の例会における太田雑誌委員長のスピーチ(ウィークリ38号)と「友」4月号の「友」はあなたに必要なかという座談会記事を見てみまして、「友」は単なる宣伝一辺倒の雑誌でないことを再認識しました。

本日、創立記念例会にあたり、千種ロータリークラブのますますの発展を期待して、「友」が良い読物であることをご紹介すると同時に新しい会員の方々のために、ロータリーを理解する一手段としてこれを利用したらどうかということを提言して、私の挨拶といたします。

◇例会変更のお知らせ

- 名古屋昭和RC 9/2(月)I.D.M.の為、9/3(火) 八事八勝館にて18時より
- 名古屋名東RC 9/10(火)月見夜間例会の為、雪月花にて
- 名古屋名駅RC 9/11(水)夜間例会(納涼祭)の為、キリンカフェにて18時より

◇自宅電話番号変更のお知らせ

会員 魚津 常義君  
新電話番号 762-2701

◇次回例会(9月3日)

友愛の日(立食)